

文化箏 被災地に響く 箏遊会29人、宮城で公演



東日本大震災の被災地を訪れ公演を行った「箏遊会」のメンバーら
—宮城県仙台市の高砂市民センター—

佐賀市

佐賀市の文化箏奏者・古賀真理子さん(57)が主宰するサークル「箏遊会」メンバー29人が5月下旬、東日本大震災の被災地を訪れ、文化箏の公演を行った。今もなお仮設住宅で暮らす被災者たちに箏の調べを届け、会場に笑顔が広がった。

主宰の「元気送りがかった」 古賀さん

公演は宮城県仙台市と石巻市で開いた。22日は仙台市の高砂市民ホールで、仮設住宅で暮らす約200人の来場者に元気を届けた。「ふるさと」などなじみ深い曲のほか

か、地元のみ謡「祭太郎節」や、仙台市出身の土井晩翠が作詞した「荒城の月」などを演奏した。

「ミニニティーセンター」で公演し、訪れた住民約40人には佐賀産のタマネギや手作りの小物も贈った。

と思っていたと語る。その上で「今回の公演をきっかけに、被災者の間でも久しぶりに再会した人たちがいたよ。みんなで開いて良かった」とニコニコしている。うれしい気持ちとともに、東北人の強さを感じた」と振り返った。(志垣直哉)

佐賀の特産品をテーマにしたおしりうたやキャラクター「あいらみのりちゃん」のイラストを用意し、佐賀農業やイベントもPRした。

箏遊会は震災2日後の1昨年3月18日、大町町で公演した。古賀さんは「震災直後で開催を迷ったが、決行したら大勢来てくれた。

以来、『遠い九州から元気を送りなご』というおしりうたは、

28日は、石巻市のコ

「こしかは慰問に」